

氏名	国 富 昭 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 7 6 号
学位授与の日付	昭和39年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	ウイルス性肝炎及び肝硬変の肝循環動態に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平 木 潔 教授 小川 勝士

学 位 論 文 内 容 要 旨

ウイルス性肝炎の慢性化および肝硬変への進展の機序解明の方法として、肝静脈カテーテル法を慢性肝炎57例、肝硬変17例に実施して肝循環動態を明らかにすると共に、臨床所見、肝機能検査所見、腹腔鏡所見、肝組織所見、と比較検討を加えた。第一編では、慢性肝炎に於いて、閉塞性肝静脈圧の上昇、有効肝血流量の減少、30%程度に肝内短絡血流陽性、20%程度に内臓酸素消費量の減少を認め、夫々の相関性を明らかにし、他の各種所見と併せた結果潜在型で発病した慢性肝炎は、肝循環の面からの考察でも障害が著しく、肝硬変へ進展する可能性が大きいと推定される。臨床経過の病型では、再発を繰り返す型および軽症不定型で同様な傾向を認めた。次で第2編では肝硬変症において同様の強い傾向をみたが、殊に肝内短絡血流の陽性率の増加、平均動脈血酸素含量の低下をみとめ、内臓酸素消費量は正常範囲を維持していることを認め、肝炎の進展と慢性化との間の循環動態の推移を病態生理学的に説明することが出来た。

昭和39年 5 月 岡山医学会雑誌76巻4.5号に掲載

論文審査の結果の要旨

国富昭夫提出の「ウイルス性肝炎および肝硬変の肝循環動態に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

肝静脈カテーテル法により慢性肝炎、肝硬変の肝循環動態を検討しているが、えられた結果の注目すべき所見は慢性肝炎においても意外に肝循環動態に異常をみとめたという点で、肝硬変での検索成績が従来報告とほぼ一致しているのに対し、特に新知見である。

而もこれらの循環動態異常が慢性肝炎でその病型および肝生検組織像と密接な関係をもち、逆にその異常が肝組織変化の新しい進展の原因となりうることも明らかにしたことは注目すべきである。

又、潜在型で発病した慢性肝炎に循環動態の障害がより著しい点も注目すべきで、これによってこの型が、肝硬変への進展傾向をより強く表すとの事実の裏付けを明かにしている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。